

巻頭言



代表取締役 執行役員社長

三井田 健 Takeshi Miida

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。また、平素から「明電時報」をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。

緊迫する世界情勢に起因したエネルギー価格の高騰や、地球環境問題に端を発する気候変動、自然災害の多発など、グローバルな社会課題を背景にデジタル化の進展やカーボンニュートラルに向けた取り組みがますます加速しています。

明電グループでは、一昨年スタートした「中期経営計画2024」を昨年5月にアップデートし、事業ごとの取り組みを強化・推進しました。本号では、それら取り組みの成果をご紹介します。

「電力インフラグループ」では、環境に配慮した受変電設備やSF₆フリー ガス絶縁開閉装置に加え、再生可能エネルギー事業として水力発電設備を納入しました。今後更に事業を拡大するとともに、AI/IoTを活用した保安のスマート化のご提案など、グリーンかつ安全・安定な電力供給の実現に取り組めます。

「社会システムグループ」では、電鉄用システム事業として、AIを用いた電車線設備検査業務の自動化に取り組みました。水インフラ事業では、国土交通省委託事業「AIを活用した下水処理場運転操作の先進的支援技術に関する実証事業」に参画しました。インフラ設備の維持管理業務の省力化・高度化を通じてサステナブルなインフラ構築に貢献します。

「産業電子モビリティグループ」では、電子機器事業でカーボンナノ構造体を電子源とした180kV冷陰極X線管を製品化しました。非破壊検査機器の小形化で様々な用途への展開が期待できます。モビリティ事業では、電気自動車・プラグインハイブリッド車用ドライブユニットのラインアップ拡充を図りました。急速に変化する市場環境や技術革新に対応し、最先端のものづくりや車両の電動化に貢献します。

「フィールドエンジニアリンググループ」では、動画を用いた保守メンテナンス技術の継承（学び方改革）や、カスタマーセンターにお客様設備を見守る情報ハブ機能を持たせる機能強化など、時代の変化に合わせた保守・点検サービスを展開しました。引き続き設備を長く安全にお使いいただくための保守サービス・ソリューションの提供で、安心・安全な社会の実現に取り組めます。

そして、これら事業を支える研究開発では、当社のパワーエレクトロニクス・AI/IoT・材料技術・解析／分析技術を深化させるとともに、常に新しい価値を生み出し続ける研究開発に取り組んでいます。

明電グループは、社会とともに成長し、社会から必要とされる企業を目指し、新しい技術と価値の創造にチャレンジし続けます。今後とも皆様方の変わらぬご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。